

(別表第1の4)

事業所名 グループホームころ今出

目標達成計画

作成日: 平成 24 年 4 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	35	居室が2階にあり、車椅子を使用している入居者が多いので、実践的な訓練を行う必要がある。また、避難の際には、近隣の方等に協力して頂けるような協力体制を整えていく。	日中、夜間ともに今以上に迅速に避難ができようになる。火災だけでなく、地震や津波などの防災訓練も行っていく。	火災が起きない環境作りに努める。火災が起き、避難する時の移動方法を考える。避難訓練・防災訓練・応急手当講習会を開催し、自主防災の方々や地域の人々にも参加して頂けるよう努め、いい協力関係が作れるようにする。	12 か月	日中の火災を想定しての避難訓練、夜間の火災を想定しての避難訓練、応急手当講習会、地震と津波の発生を想定した防災訓練を実施した。
2	33	入居時に、終末期ケアについての入居者・家族の意見や考えが、しっかり聞き取りできていない。看取りに対して経験があまりない。	入居時や体調が大きく変わってきたときなど、本人や家族の考えを確認できる話し合いの場を設け、主治医・訪問看護など医療機関との連携を図りながら、その人らしい最期が迎えられるように体制を整えていく。	看取りに関する研修に積極的に参加していく。入居時に終末期ケアに関する意識確認できる書類等を整備する。日頃より往診時や訪問看護時にはしっかり入居者の様子等を伝えていく。	12 か月	看取りの研修会に参加して学んできたことをミーティングで職員同士で勉強している。入居時の書類と整備は現在整備中である。
3	2	少しずつ地域との交流が持てるようになってきたが、よりいっそう地域に溶け込んでいけるように努力していく。	地域の人々にとって、当事業所がどういう存在であってほしいのかを理解していく。	地域の情報収集に努め、協力できることがあれば協力していく。当事業所がどういう存在であってほしいのか地域の人々にアンケートをとってみる。要望があれば、できる限り実行していく。	12 か月	プチ美化運動協力事業所に登録し事業所周りの清掃活動を始める。地域の行事等にも参加している。
4					か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。*

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

注3) 外部評価結果の通知を受けた日から概ね30日以内に評価機関に報告してください。

注4) 目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告してください。